

森岡清美の宗教社会学

その検証と継承

おおたに えいち てらだ よしろう

大谷栄一・寺田喜朗編 ▼46判・並製カバー・348頁・定価 三、五二〇円

2025年5月刊行



日本宗教社会学の開拓者・森岡清美が遺した知的遺産の数々に、後学はいかに向き合うべきか。宗教社会学の原点を尋ねる意欲的試み。

特別収録 森岡清美 教団構造論から教団周期論へ (西山 茂)

コラム7 森岡清美の「決死の世代」への思いと生き方 (渡辺雅子)

●資料 森岡清美の著作一覧 (大谷栄一) (寺田喜朗)

◆著者略歴

大谷栄一 (おおたに えいち)

一九六八年生まれ。現在、佛教大学社会学部教授。専攻は宗教社会学、近代仏教研究。主な著作に、『近代日本の日蓮主義運動』(法蔵館、二〇〇一年、日本宗教学会賞・中村元賞)、『近代仏教という視座——戦争・アジア・社会主義』(ベリカン社、二〇一二年)、『日蓮主義とはなんだ? つかの間に——近代日本の思想水脈』(講談社、二〇一九年、望月学術賞)がある。

寺田喜朗 (てらだ よしろう)

一九七二年生まれ。現在、大正大学文学部教授。専攻は宗教社会学、新宗教研究。主な著作に、『旧植民地における日系新宗教の受容——台湾生長の家のモノグラフ』(ハーベスト社、二〇〇九年)、『国際宗教研究所奨励賞』、『近現代日本の宗教変動——実証的宗教社会学の視座から』(共編著、ハーベスト社、二〇一六年)、『都市化と宗教——高度経済成長期の東京を中心に』(島蘭進ほか編『近代日本宗教史 第五巻 敗戦から高度成長へ』(春秋社、二〇一二年)所収)がある。

【目次】

はじめに

総論 森岡清美の宗教社会学研究——その特徴と軌跡 (大谷栄一)

コラム1 書庫からみる森岡清美の宗教社会学調査——一九五〇年代のフィールドノートから (小林多寿子)

第1章 森岡清美の「真宗教団と「家」」研究 (大場あや)

コラム2 森岡清美の真宗教研究 (大澤絢子)

第2章 森岡清美の神社研究——その社会学的／時代社会的な位置づけ (小島伸之)

コラム3 森岡清美の慰霊・追悼研究 (今井昭彦)

第3章 森岡清美のキリスト教研究・再考 (川又俊則)

コラム4 キリスト教の「受容・定着」研究とその批判的継承 (山口瑞穂)

第4章 森岡清美の先祖祭祀研究——同時代の研究トレンドとの対応か (間芝志保)

コラム5 森岡清美の墓と家族の研究 (井上治代)

第5章 森岡清美の「新宗教研究」——森岡宗教学の成果と課題 (寺田喜朗)

コラム6 森岡清美の宗教調査 (磯岡哲也)

注文書

(書店印)

ご担当

様冊

法蔵館

定価 三、五二〇円

ご住所

大谷栄一・寺田喜朗編
森岡清美の宗教社会学

その検証と継承

お電話

お名前

ISBN: 978-4-8318-5728-6 C1014

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

宗教社会学